

支援対象国

インドネシア共和国



面積：約189万km²（日本の約5倍）

人口：約2億5,500万人（日本の約2倍）

首都：ジャカルタ（人口約1,017万人）

宗教：イスラム教（87.21%）、その他

その他：約1万3000の島々からなる島国であり、およそ130の活火山が存在しています。世界有数の災害多発国であり、2004年12月に発生したスマトラ島沖地震・津波災害被害では、死者・行方不明者が22万人にものぼりました。



スマトラ島ベンクル州沿岸はインド・オーストラリアプレート沈み込みによって引き起こされるマグニチュード8クラスの地震と津波の発生による甚大な被害が予想されています。

また、同地域はインドネシアでも3番目に貧困率の高い地域であり、地域住民は日常生活を送りながら、防災減災対策を進めていかなければならないという大きな課題があります。

日赤はインドネシア赤十字社ベンクル州支部を拠点として地域防災活動による被害軽減を側面支援しています。

これまでのご支援、誠にありがとうございます。
赤十字の活動は、皆さまからのご寄付に支えられています。

年間目標額 3,400万円

皆様のご寄付でできること。例えば…

- 災害時の対応計画の策定と訓練にかかる費用
1村につき、約5万円
- 地域防災ボランティアへの教育プログラム費用
1人につき、約9千円

平成28年度には、教育を受けた地域防災ボランティアが支援地の6つの学校に防災教育を行ったほか、セルマ県・カウラ県で赤十字の緊急時対応計画が整備されました。



インドネシア コミュニティ防災事業



住民参加による村の災害リスク分析の様子

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 国際部 開発協力課
TEL: 03-3437-7089

2018年10月作成

事業概要

事業名：インドネシア：コミュニティ防災事業

期間：2016年4月～2020年3月

事業地：スマトラ島ベンクル州

対象：・ベンクル市 3村 3,728世帯

・セルマ県 3村 490世帯

・カウル県 3村 944世帯

目的：地震と津波に対して地域住民が災害に対処する力を向上すること。

目標：1) 地域と住民が災害に対処する能力の強化
2) インドネシア赤十字社の災害対応能力強化
3) 災害リスク軽減のための地域情報網の拡大

活動：・防災ボランティアの養成

・地域防災力の向上のための委員会組織の設置

・参加型防災活動への住民の参画と啓発活動

・リスク調査・分析とハザードマップの作成

・地域防災活動計画の策定と実施

・防災活動実施状況のモニタリングと評価

・インドネシア赤十字社職員等への研修・訓練

・ベンクル州地域防災フォーラムの立ち上げ

・災害救護訓練の実施 等

なぜ今、コミュニティの防災力が求められるのか？

2011年3月、あの東日本大震災の残した傷跡は、未だに癒えることなく、当時の悲しみが蘇ってきます。「釜石の奇跡」の陰の立役者となった三陸に伝わる「津波てんでんこ」の教えをご存知ですか？「いざという時に、自分自身の判断で的確な行動がとれるように」と、昔から伝わるこの教えは、多くの人々の命を救いました。ここから得られる教訓は、災害に対する正しい理解と、発災した後の行動を事前に考えておき、それを行動にうつすことで、減災につながるということでした。

私たち赤十字が支援する地域防災は、災害の危険に対して、真っ先に対応を余儀なくされる脆弱な人々に焦点を当てています。そして、地震や津波などの危機に瀕している地域において、住民自らが身の周りの危険に気づき、その解決策に取り組むことができるように支援しています。災害に対応できる知識と能力を身につける一連の活動を通して、住民が災害に対処する力(レジリエンス)を向上させることを目標としています。日赤は、インドネシア赤十字社の組織強化と地域行政との連携強化を通じた地域防災メカニズムの構築にも注力しています。

村レベル

村の災害リスク分析



村の防災活動計画の策定



防災活動の実施



上位目標

住民の行動が変化し、



最も脆弱な人々の



命が守られる社会を！



組織レベル

能力強化研修



防災・災害救護訓練



災害への対応



行政レベル

パートナーシップ強化



防災フォーラムの活性化



防災開発計画の支援



受益者からの声

「生まれてからずっとこの村に暮らしているけど、幾度となく地震の揺れを経験してきたわ。とっても怖いし、村には対策も何もなかったの。それに津波のことは正直よく知らなかったわ。

日赤の支援を受けてこの村で赤十字の活動が行われるようになってからは、村の集会でいつも生活に身近な防災の話や話を赤十字ボランティアがしてくれるようになったのよ。今は村の集まりに出ることも楽しみのひとつなの」

ベンクル州セルマ県 ベナゴバル村在住のザリアマヘ二さん (35)

